

県民の皆様へ

心豊かに笑顔で暮らしていますか



平成 37（2025）年は団塊の世代の方々が 75 歳以上になり，県民の 3 割以上が高齢者（65 歳以上）となるなど，少子高齢化の流れは止まりません。加えて，人口減少が加速し，地域の姿も変わっていきます。

私たちは，親から生命を授かり次の時代へバトンタッチするまで，自分を生き，まわりの人を支え，支えられ，家族・地域の一員として社会をつくっています。

私たちは，いつでも健康でありたいと願っていますが，病気やけがなどで通院や入院，在宅等で療養することがあります。かかりつけ診療所や高度医療機関の医療で治癒することもあれば，慢性の病気とともに生きていかなければならないこともあります。場合によっては，要支援・要介護状態になり介護サービスの利用が必要になることもあります。

私たちが医療や介護が必要になったとき，「身近な地域で質の高い医療・介護サービスを受け，住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう」，限りある医療・介護資源の有効な活用による医療提供体制の整備と地域包括ケアシステムの確立を一体的に推進するとともに，医療・福祉・介護を支える人材の確保・育成を進めるため，この構想を策定しました。

県民の皆様“心豊かに笑顔で暮らしていただけるよう”，医療・介護の関係者と市町などの関係機関，そして皆様のご理解とご協力をいただきながら全力で取り組んでまいります。

平成 28（2016）年 3 月

広島県知事 湯崎英彦